熱川温泉病院

症例概要　患　　者：70代　女性

病　　名：左小脳出血

入院期間：2022年4月～（入院中）

【患者さんとご家族の幸せの思い出作り大作戦】

多職種が連携し、心を込めて準備を進めてきたこのイベントは、患者さんにとって、愛と絆が織りなす感動的な一日となった。

【経　　過】○○県在住の患者さんは、2021年7月に左小脳出血を発症され、急性期治療を経て、娘が勤務する当院へと転院した。入院当初はFIM18点と日常生活全般に介助が必要な状態であった。入院後も、チーム医療による継続的な介入により、短時間のリクライニング車椅子への乗車、気管カニューレ抜去後のプリン摂取、コミュニケーションは、精度にムラはあるものの、瞬きやイエス・ノーで意思表示が可能となった。今年4月、ご家族である職員（娘）から結婚を打ち明けられた勤務先の師長、患者さんの入院先の師長がタックを組み、結婚式への参列は難しい患者さんのために、「患者さんと家族の幸せの思い出作り大作戦」と銘打ち、院内でお披露目会を計画するプロジェクトが、多職種チームで動き出した。

内　　容

ご家族である長女の願いは「花嫁姿をお母さんに見せたい。」「ウエディングケーキを1口でも味わって欲しい」であり、医療者である私達も、患者さんの人生の節目となるイベントを実現しようという思いが強くなった。そこで、主治医とカンファレンスを開催し、患者さんの状態、お披露目会に参加するために必要な多職種介入を話し合った。

理学療法士は、患者さんが当日リクライニング車椅子に1時間乗車できるよう、離床の機会を増やし、耐久性の向上に努めた結果、PTの熱意も相まって、着実に成果を生み出していった。また、言語聴覚士は、スポンジと生クリームで作られたケーキを一口でも安全に摂取できるよう、ジェントルスティムを併用した嚥下訓練を根気強く行った。美味しく召し上がっていただくための細やかな配慮と、専門的なアプローチは、長女の希望を叶える上で不可欠だった。2か月後には、リクライニング車椅子に約1時間乗車できるまでに改善。ケーキは小スプーンで1口程度ならば、摂取することが可能となった。

看護師は、企画の発案者として中心となり、会場の飾り付けや花嫁衣装やブーケの準備、イベントの

進行を担当、長女の思いを汲み取り、患者さんが最大限に楽しめるよう、きめ細やかな配慮と準備を進めた。

お披露目会当日、チーム内の医師・看護師・事務職員が会議室を手作りで装飾し会場を整え、事務職員が手作りのウエディングケーキを作り準備をした。会場に音楽が流れ、父親役のディレクターの腕を組んで入場。看護部長が手作りしたウエディングブーケを持ったドレス姿の娘の姿を見た患者さんは目と口を大きく開き、左手を挙げて、驚きそして最高の笑顔をみせた。娘から感謝の手紙が朗読され、院長の祝辞の後、娘の希望のファーストバイトを行い、患者さんがケーキを味わうこともできた。参列した職員全員がお祝いムードのなか、お披露目会は二人の感動的なシーンで幕を閉じ、『思い出作り大作戦』も成功裏に終わった。事務職員は、このかけがえのない瞬間を記録に残す役割を担当した。

多職種がOurTeamで患者の人生イベント実現に取り組み、娘の願いが叶ったこと、患者さんである母親が娘のウエディングドレス姿を見て、その成長と幸せを実感することができたことで健育会職員が目指すべき「愛情を持って親身な対応」を実践することができた事例であった。

【各職種の関わり】

医　師：カンファレンスを実施。計画に加わり、イベントで祝辞を送った。

看護師：計画を発案し装飾などの準備を行った。会場の飾りつけやイベントの進行を担当した。

セラピスト：訓練により車椅子での耐久性向上やケーキを食べられるよう努めた。

事務職員：会場の飾りつけ、手作りケーキの準備、写真撮影を担当した。